

**平成30年度
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書**

(平成29年度事業)

平成30年9月

向日市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	教育委員会の活動状況	2
III	事業評価シート（平成29年度事業）	7
	(事務事業番号)	
1	学力の向上と個性を伸ばす教育の推進	8
2	豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進	13
3	健やかな身体の育成と体力の向上	16
4	家庭・地域社会との連携による特色ある 学校づくり	19
5	教職員の資質能力の向上	21
6	安心・安全な教育環境の充実	23
7	生涯学習環境の充実	26
8	家庭・地域社会の教育力の向上	34
9	子育てを支援する保育環境づくり	37
10	スポーツの振興	39
11	多様性を認め合う社会の実現	41
12	歴史・文化資源の整備と活用	42

I はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないとされております。

また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとしてされております。

このため、本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するとともに市民の皆様への説明責任を果たすため、事務事業の実績について取りまとめ、成果や課題について検証しました。

また、学識経験者である市教育委員会外部評価委員の方のご協力を得て、様々な意見・助言等をいただきましたので、その結果を報告します。

2 点検・評価の対象及び方法

教育基本法第17条第2項に基づく「本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画」と位置づけている「ふるさと向日市創生計画」で定める重点施策や取組事業を踏まえ、主要な12施策47事業を外部評価対象事業とし、委員の方から施策ごとに様々な意見・助言等をいただきました。

(1) 点検・評価委員

氏名	役職等
前坂 あや子	元高知県教育委員会事務局就職アドバイザー
松宮 功	大阪国際大学短期大学部教授

(2) 点検・評価会議開催状況

第1回点検・評価会議（平成30年7月19日開催）

第2回点検・評価会議（平成30年8月9日開催）

第3回点検・評価会議（平成30年8月23日開催）

II 教育委員会の活動状況（平成29年度）

1 教育委員会構成員

役職	氏名	就任日	任期満了日
教育長	永野 憲男	平成27年7月1日	平成30年6月30日
教育長 職務代理者	前田 信行	平成14年10月1日	平成30年9月30日
委員	白幡 節子	平成17年12月10日	平成33月12月9日
委員	松本 克彦	平成20年10月1日	平成32年9月30日
委員	流石 智子	平成27年10月1日	平成31年9月30日

（1）教育長の異動

なし

（2）委員の異動

平成29年12月9日で白幡委員が任期満了となり、12月10日付けで再任された。

2 教育委員会の開催状況 14回

回	開催日	時間	付議案件等
平成29年 第5回	4月25日(火)	午前10時00分～ 10時44分	(報告事項) ・平成28年度学校教育課新規事業の実施状況について ・文化資料館催しについて ・第4向陽小学校プール改修工事について
第6回	5月23日(火)	午後1時30分～ 1時34分	(議案第9号) 向日市議会平成29年第2回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について
第7回	7月11日(火)	午後3時00分～ 4時12分	(報告事項) ・向日市議会平成29年第2回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会の質疑について ・小中学校トイレ改修工事について ・向日市中学校給食事業基本計画について ・図書館自習室について
第8回	8月18日(金)	午前9時30分～ 10時42分	(議案第10号) 向日市議会平成29年第3回定例会の議決を経るべき案件に対する意見について (報告事項) ・中学校総合体育大会結果について ・第14回向日市小学生夏休み作品展について ・第15回向日市中學生美術展及び第11回向日市中學生書道展について ・第14回向日市中學生弁論大会について ・第2向陽小学校前面道路拡幅工事について ・重要無形文化財の保持者の追加認定(総合認定)について
第9回	8月22日(火)	午後3時00分～ 3時40分	(議案第11号) 平成30年度に使用する小中学校教科用図書の採択について (議案第12号) 平成30年度に使用する学校教育法附則第9条に規定される教科用図書の採択について

回	開催日	時 間	付議案件等
第10回	9月26日(火)	午後2時00分～ 3時20分	(議案第13号) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の 点検及び評価に関する報告書について (報告事項) ・向日市議会平成29年第3回定例会一般質 問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑に ついて ・向日市立小中学校トイレ改修工事について
第11回	10月24日(火)	午前9時30分～ 9時43分	(議案第14号) いじめ防止対策推進委員会委員の委嘱につ いて
第12回	11月14日(火)	午後2時00分～ 2時28分	(議案第15号) 向日市議会平成29年第4回定例会の議決 を経るべき案件に対する意見について (報告事項) ・向日市地区公民館耐震診断の結果について ・小学校外国語活動の新教材「We Can!」等 について
第13回	12月26日(火)	午後2時00分～ 3時00分	(報告事項) ・向日市議会平成29年第4回定例会一般質 問答弁要旨について ・通学区域弾力化制度の受付結果について ・乙訓小学校駅伝の結果について ・第16回小中学生読書感想文コンクール表 彰式について
平成30年 第1回	1月23日(火)	午後2時00分～ 2時16分	(報告事項) ・平成30年度向日市の教育の改訂について ・平成29年度文部科学大臣優秀教職員表彰 について
第2回	2月13日(火)	午前10時00分～ 11時30分	(議案第1号) 向日市議会平成30年第1回定例会の議決 を経るべき案件に対する意見について (報告事項) ・平成30年度向日市の教育の改訂について ・平成29年度第2回いじめ調査の概要につ いて

回	開催日	時 間	付議案件等
第3回	2月20日(火)	午後2時00分～ 2時32分	(議案第2号) 平成30年度向日市の教育について
第4回	2月26日(月)	午前9時30分～ 10時00分	(議案第3号) 人事に関する事について
第5回	3月27日(火)	午前9時30分～ 11時15分	(議案第4号) 向日市教育委員会事務局組織規則及び向日市教育委員会職員の職の設置に関する規則の一部を改正する規則について (議案第5号) 向日市スポーツ推進委員の委嘱について (議案第6号) 人事に関する事について (報告事項) ・向日市議会平成30年第1回定例会一般質問答弁要旨及び総務文教常任委員会質疑について

3 教育委員会委員の主な活動

(1) 教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- ・小中学校入学式・卒業式
- ・小中学校訪問
- ・小中学校体育大会
- ・小学校水泳記録会
- ・中学生弁論大会
- ・小学生夏休み作品展
- ・中学生美術展・書道展
- ・小学校陸上運動交歓記録会
- ・小中学校公開授業、研究発表会
- ・中学生英語スピーチ大会
- ・乙訓地方小学生駅伝大会
- ・成人式
- ・京都西山高等学校入学式・卒業式
- ・京都府立向日が丘支援学校入学式・卒業式 ほか

(2) 研修・協議会等

- ・乙訓教育委員会連合会教育委員研修会
- ・乙訓教育委員会連合会定期総会
- ・京都府市町村教育委員会連合会定期総会・研修会
- ・京都府内市町（組合）教育委員会研修会
- ・近畿市町村教育委員会研修大会

Ⅲ 事業評価シート（平成29年度事業）

施策番号	1
施策名	学力の向上と個性を伸ばす教育の推進

<p>施策の目指す姿</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をはじめ、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や主体的に学習に取り組む意欲・態度を統合した「質の高い学力」を育成するため、指導方法・指導体制を工夫・改善し、個に応じた指導の充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 学習指導の充実 ② 特別支援教育の充実 ③ キャリア教育の充実 ④ 現代的課題に対する関心を高め、理解を深める教育の充実 ⑤ 校種間連携の強化</p>

事業名	研究指定	施策の方向性	①
事業概要 実績	○京都府教育委員会指定「学力向上システム開発校」・向日市教育委員会指定 第2向陽小学校 「数学的な見方・考え方を養う」 ～児童の「問い」が連続する みんなで学び合う 学習サイクルを構築しながら～ (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	11月 1日 約50人参加
	第4向陽小学校 「自分の考えを持ち、自分から人と関わろうとする児童の育成」 (授業研究・学習環境の整備等)	研究発表	11月10日 約110人参加
	○京都府乙訓教育局指定「OASIS校」・向日市教育委員会指定 向陽小学校 「伝え合う」「学び合う」「高め合う」～自分の言葉で表現する児童の育成～ (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	1月29日 約120人参加
	西ノ岡中学校 「基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び考え、豊かに表現する生徒の育成」 (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	2月 1日 約40人参加
	寺戸中学校 「自ら考え、主体的、対話的に学ぶ生徒の育成～授業改善と学習習慣の定着～」 (授業研究・学習環境の整備等)	公開授業	11月16日 約60人参加
担当課	学校教育課		

事業名	学力テストの実施	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○各種学力テストを実施し、児童生徒の学習の定着状況を把握するとともに結果分析から指導改善につなげた。</p> <p>(向日市) 標準化された学力テスト (CRT) 国語、算数・数学、理科、社会、英語 小学校4年生～中学校3年生</p> <p>(京都府) 学力診断テスト 小学校4年生、中学校1年生、2年生 (文科省) 全国学力・学習状況調査 小学校6年生、中学校3年生</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	特別支援教育の充実	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○向日市教育支援委員会において、小中学校に在籍又は就学予定の幼児、児童及び生徒について、障がい等に配慮した適切な就学について協議し、相談及び指導を行った。</p> <p>相談件数 95件 (就学前28件、小学校43件、中学校24件)</p> <p>○各校の状況に応じ、特別支援教育支援員を配置し、教育上特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援を行った。</p> <p>全小中学校に配置 小学校21人、中学校7人</p> <p>○就学奨励費を支給し、特別支援学級に就学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図った。</p> <p>給付内訳 (給付対象人数：小学校56人、中学校19人) 学用品等購入費 (小学校56人、中学校19人)、給食費 (小学校56人) 校外活動費 (宿泊あり・宿泊なし) (小学校6人・54人、中学校0人・17人) 修学旅行費 (小学校7人、中学校7人) 体育実技用具費・柔道 (中学校3人) 新入学児童生徒学用品費等 (小学校14人、中学校7人)</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	職場体験	施策の方向性	③
事業概要 実績	<p>○望ましい職業観や勤労観等を身につけさせるため、市の「総合的な学習」補助金や府教育委員会補助事業「KYO 仕事・文化体験活動推進事業」等を活用し、介護や農作業等の体験活動や地域社会における職場体験を実施した。</p> <p>小学校：農作物の栽培、保育所や幼稚園での幼児との交流、介護体験 等 中学校：市内の事業所等における2年生の職場体験 115事業所 勝山中学校 4日間 (10～11月) 事前授業を含む 西ノ岡中学校 4日間 (11月) 寺戸中学校 4日間 (11月)</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	現代的課題への関心	施策の方向性	④
事業概要 実績	<p>○法やルールに関する教育（京都府教育委員会指定） 寺戸中学校「自分を大切にするとともに、他者を大切にする生徒の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が、決まりやルールの在り方を考えることで、人と人とのつながりや思いやりの心を深めることができた。 <p>○生命のがん教育推進プロジェクト事業（京都府健康福祉部） 第2向陽小学校 6年生（80人）</p> <ul style="list-style-type: none"> がんに関する知識を医師やがん経験者から直接学び、生活習慣の大切さについて学ぶとともに、健康と命の大切さについて考えることができた。 		
担当課	学校教育課		

事業名	校種間連携の充実	施策の方向性	⑤
事業概要 実績	<p>○各中学校校区（勝山中、西ノ岡中、寺戸中）において、学力向上を目的とした取組や児童生徒間の交流を実態に応じて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒 <ul style="list-style-type: none"> 部活動体験 向陽小6年（99人）、5向小6年（85人） 見学 3向小6年（85人）、4向小6年（93人） 西ノ岡陸上部が指導 2向小6年（80人）、6向小6年（61人） （小学生陸上交歓記録会に向けての練習） 中学校の授業体験 2向小6年（80人）、6向小6年（61人） 中学校の体育祭見学 向陽小6年（99人）、5向小6年（85人） （体育祭予行を見学）3向小6年（85人）、4向小6年（93人） 教職員 <ul style="list-style-type: none"> 合同研修会（学力分析、生徒指導など） <ul style="list-style-type: none"> 勝山ブロック（8月、約100人） 西ノ岡ブロック（8月、約80人） 合同授業研究会（公開授業の参観、事後研究など） <ul style="list-style-type: none"> 勝山ブロック <ul style="list-style-type: none"> （向陽小へ約110人、5向小へ約100人、勝山中へ約100人） 西ノ岡ブロック <ul style="list-style-type: none"> （2向小へ約50人、6向小へ約60人、西ノ岡中へ約40人） 寺戸ブロック <ul style="list-style-type: none"> （3向小へ約60人、4向小へ約110人、寺戸中へ約60人） <p>○幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続が図られるように、教職員の交流や幼児と小学生の交流等を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼児児童の交流行事 <ul style="list-style-type: none"> 小学校での遊び 全小学校1年 小学校での授業 4向小1年、5向小2年 小学校での給食 2向小1年、6向小1年 小学校の体育大会への招待 向陽小、6向小 児童の園訪問 3向小5年 		

	<p>・教職員（全小学校実施） 保幼小交流会（参観、懇談）、異校種体験、参観授業 合同研修会に参加（京都府乙訓教育局主催事業）</p>
担当課	学校教育課

施策の成果と課題

<p>【成果】</p> <p>○学力の向上と個性を伸ばす教育の推進に向け、各学校が、状況や実態に合わせ、研究テーマをもとに研究を深め、成果を公開授業や授業研究会で発信するとともに、市内小中学校の教員の相互の参加を積極的に行うことで、成果の波及につながった。</p> <p>○教育支援委員会では学校や保育所、幼稚園、療育等関係機関、保護者と連携して、児童生徒一人一人に応じた教育的支援の在り方について相談できた。また、各小中学校では、特別支援教育支援員による児童生徒支援の充実が図られた。</p> <p>○各学校の特色を生かした体験活動や職場体験など発達段階に応じたキャリア教育を進めることで、勤労することの喜びや大変さなどに気付かせるとともに、将来の夢や希望につなげたり、規範意識や社会性を身に付けさせることができた。</p> <p>○校種間連携の取組が、各小中学校の状況に応じて実施できた。子どもの異校種体験や交流を進めるとともに、指導者による合同研修会や交流を継続して開催することで、異校種間での教育内容の違いや育てたい姿の共通理解が進んだ。</p> <p>【課題】</p> <p>○児童生徒一人一人に応じた教育的支援の在り方について、充実させるためにも、就学前から就学後の支援に関して、支援ファイルなど福祉関係機関ともさらに連携して進めていく必要がある。</p> <p>○各学校は、児童生徒が体験をすることが目的にならないように、体験活動前後の学習を計画的に進め、体験を児童生徒の職業観や勤労観につなげることを意識して指導する必要がある。</p> <p>○学習指導要領の趣旨を踏まえ、校種間連携の取組をさらに充実させる必要がある。</p>
--

外部評価委員評価及び意見等

<p>○学習指導において、研究指定を数年にわたり継続的に行っていることは評価できる。長期にわたり実施することで、これまでからの研究方法にとらわれ過ぎることがないよう、柔軟に対応を行ってほしい。</p>
--

○学力テストにおいて、成績の低い教科に着目して何が課題であるか分析するだけでなく、研究指定に関わって研究している教科にも着目し、学力の伸びや定着している部分についても評価することで研究の価値が出るうえに、学習指導にも還元できる。

○職場体験について、近隣市町より日数が一日多いことは評価できる。生徒は、様々な分野に別れて職場体験を行うが、共通する部分をキャリア教育として教えてほしい。

○全小中学校に特別支援教育支援員が配置されている点は評価できる。また、向日市教育支援委員会が充実しているため、特別支援教育コーディネーターを複数名配置することにより、コーディネーター同士が学びあい、人材育成につながり、学校の状況を把握することでひいては、学校全体の支援につながる。

○校種間連携の取組について、交流を実施することでお互いの共通理解が進んだことが評価できる。教職員間の交流について、事業をきっかけに関係性を構築することで、児童生徒の学力向上につながると考えられるため、積極的に継続してほしい。

施策番号	2
施策名	豊かな人間性をはぐくむ心の教育の推進

<p>施策の目指す姿</p> <p>学習指導要領に規定された公共の精神、伝統や文化の尊重などを踏まえ、伝統や文化に関する教育や道徳教育、体験活動を充実させるとともに、家庭、地域社会と一体となって、人間として、また社会の一員として主体的に生きるための基本となる資質や能力である豊かな人間性や社会性の育成を図る。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 道徳教育の充実 ② 人権教育の推進 ③ 生徒指導の充実 ④ 芸術・文化活動の充実</p>

事業名	道徳の時間実践交流	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○授業改善に生かすため、研究授業の参観・研究協議等を通して、児童生徒の心に響き、道徳的価値の自覚を促す指導方法などについて研修を実施した。</p> <p>参加者数 12人（各校教務主任・道徳教育推進教師等）</p> <p>日時 平成30年2月9日（金）午後2時25分～午後4時</p> <p>研究授業 寺戸中学校 第2学年</p> <p>資料名 「左手でつかんだ音楽」（出典：『明日をひらく』東京書籍）</p> <p>指導する内容項目 1－（4）真理の追究・理想の実現</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	人権教育	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○あらゆる人権問題に対し、豊かな人権感覚を持ち、幸せな社会生活を営めるよう、人権意識の高揚につながる取組を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に関わる授業 小学校104.2時間 中学校61.7時間 （全学年、年間合計時間の平均） ・参観、公開授業 各小中学校で実施 各1回 ・教職員研修（同和問題） 向日市教職員研修 1講座 各小中学校で実施 11講座（小学校7講座、中学校4講座） 		
担当課	学校教育課		

事業名	教育相談等	施策の方向性	③
事業概要 実績	<p>○適応指導教室の設置</p> <p>市内の不登校の児童生徒を対象に教育相談に応じたり、集団への適応力を培うための指導を行ったり、児童生徒の主体性を育成し、早期に学校へ復帰できるよう、適応指導教室「ひまわり広場」を設置した。</p> <p>指導員 3 人（9月から4人）</p> <p>1 2 3 日開設（水・木・金）、通室児童生徒 9 人（小学校 5 人、中学校 4 人）</p> <p>○教育相談事業の充実</p> <p>来所による相談、電話による相談、学校への巡回相談、家庭訪問による相談を実施した。中でも学校への巡回相談はニーズが高く、巡回相談は、臨床心理士を 3 人、作業療法士 1 人の計 4 人で担当した。</p> <p>（各相談件数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来所教育相談件数（市役所、天文館等）延べ 3 2 4 件 ・電話教育相談件数 延べ 1 5 件 ・学校への巡回教育相談（9校）延べ 2 39 件 ・家庭訪問による教育相談 延べ 6 2 件 <p>○心の相談サポーター事業</p> <p>不登校の未然防止や早期解決を図るため、登校できるが教室には入りにくい不登校傾向の児童生徒を対象に、学習支援や教育相談等を行い、生徒の悩み、不安、ストレス等の解消を図り、心にゆとりを持てるような環境の提供を行った。</p> <p>臨床心理学を学ぶ大学院生 8 人</p> <p>配置校 小学校 3 校、中学校 1 校（各校週 2 日）</p> <p>対応件数 延べ 7 8 4 件</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	子ども未来づくり支援事業（体験活動）	施策の方向性	④
事業概要 実績	<p>○児童生徒の体験活動</p> <p>各学校が、それぞれの学校の実態や地域の特色を踏まえ、伝統や文化についての児童生徒の体験的な学習や、知的好奇心を育む学習などを実施した。</p> <p>（目的別体験活動件数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上（教科や領域など） 2 7 件（小学校 2 0 件、中学校 7 件） ・体験活動（農業、栽培など） 1 1 件（小学校 8 件、中学校 3 件） ・伝統文化（落語、狂言など） 2 0 件（小学校 1 8 件、中学校 2 件） ・健康安全（食、安全など） 1 0 件（小学校 5 件、中学校 5 件） 		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題

【成果】

○参観した道徳の授業について、教師の発問と生徒の姿をもとに研究協議をしたことで、めあてを意識した授業展開の大切さについて、認識を深めることができた。

○全小中学校で、人権学習を実施し、人権尊重の意識の高揚を図るとともに、参観授業により授業を公開することで啓発もできた。また、市教委や各小中学校で同和問題についての教職員研修を行い、同和問題学習を進めるための教員の資質向上を図った。

○不登校傾向の児童生徒や保護者に対する教育相談や学習支援などを行うことができた。また、不登校傾向の児童生徒を支援することで登校や登校後に友達と関わるなど活動の広がりが見られた。

【課題】

○「特別の教科 道徳」の実施に向け、教科化の背景や指導・評価について、今後も研修を深め、保護者への説明や啓発に努める必要がある。

○不登校や学校に来ているけれども授業に入りにくい児童生徒が増加しており、一人一人の状況に応じた支援をするためのアセスメントを行うとともに、対応のできる組織体制を整備する必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○道徳的価値の自覚を促す指導方法などについての研修やフィールドワークを実施されている点が評価できる。今後も継続すべきである。また、人権教育についても、継続して研修をしてほしい。

○心の相談サポーター事業において、児童生徒と年齢が近いことで得ることができる情報等が重要である。今後も臨床心理学を学ぶ大学院生の確保に努めてほしい。

○子ども未来づくり支援事業において、各学校が主体となり活動できる仕組みが評価できる。

施策番号	3
施策名	健やかな身体の育成と体力の向上

<p>施策の目指す姿</p> <p>明るく生きがいのある生活を営むために、生涯を通じて体育・スポーツ活動に親しむことができる能力や態度を育てるとともに、現代的な健康課題への理解を深め、健やかな身体の育成を図る。</p> <p>施策の方向性</p> <p>① 体力・運動能力の向上 ② 健やかな身体の育成 ③ 食育の推進</p>

事業名	新体力テストの実施	施策の方向性	①					
事業概要 実績	<p>○各校では新体力テストを5月に実施した。 （実施種目）握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ボール投げ（計8種目） 【8種目のうち、全国平均を下回る学年の多い種目を継続観測】</p>							
	平成29年度 新体力テスト 結果	握力 (Kg)		20mシャトルラン (回)				
	項目	年度	向日市	京都府	全国	向日市	京都府	全国
	小6 男子	29年度	17.70	18.77	19.76	63.83	66.24	65.50
		28年度	19.01	19.11		55.78	66.55	
	小6 女子	29年度	18.48	18.68	19.70	46.83	52.18	50.47
		28年度	18.88	18.76		45.64	53.01	
	中3 男子	29年度	34.47	34.71	35.02	99.33	97.42	98.77
		28年度	31.79	33.74		97.87	96.93	
	中3 女子	29年度	24.27	25.05	25.74	64.00	62.70	62.59
28年度		23.03	25.16	61.46		64.51		
※全国平均値＝前年度平均値（未発表のため）								
担当課	学校教育課							

事業名	健康に関する授業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○全小中学校で薬物乱用防止教室を実施した。</p> <p>向陽小 5・6年（1月）、2向小 5・6年（1月） 3向小 6年生（12月）、4向小 6年生（6月） 5向小 4・6年生（7月）、6向小 6年生（7月） 勝山中 2年生（7月）、3年生（7月）、西ノ岡中 全学年（6月） 寺戸中 3年生（7月）</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	食育・学校給食運営	施策の方向性	③
事業概要 実績	<p>○小学校では、農作物栽培をし、給食等で活用した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作物例 1・2年生（さつまいも、ミニトマト） 3・4年生（みずな、なす、へちま、ゴーヤ、大根） 5・6年生（かぼちゃ、冬瓜、米、じゃがいも） ・給食等の活用例 大根、みずな、さつまいも <p>○給食実施児童数 3,069人（H29.5.1現在） 米飯給食週4回実施 食器消毒保管庫、牛乳保冷库、冷蔵庫、冷凍冷蔵庫、検食保存用冷凍庫等、 給食備品の整備により、給食室衛生管理の徹底を図った。 給食室害虫駆除、栄養教諭等保菌検査、食材検査、専門家による研修等を実施し、衛生管理の徹底を図った。</p> <p>○食物アレルギーを有する児童へ医学的根拠に基づいた適切な対応ができた。 食物アレルギー 212人（有症率6.9%） （そのうち、除去食対応については、96人）</p> <p>○給食センター建設に向けて実施設計を進めるとともに、市教委と学校現場による検討組織を立ち上げ、実施上の課題等についての協議・検討及び先進地視察等を行った。</p>		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題

【成果】

○全小中学校で、薬物乱用防止教室に関わる授業を実施することができた。また、非行防止教室等も含め、発達段階に応じた薬物に対する正しい知識と対処について理解を深めることができた。

○全小学校で、栽培活動と食育を関連させて学習指導を実施できた。
また、安心・安全で魅力ある給食を提供することができた。

○施設の改善や備品の更新などを行い、給食室の衛生環境の維持向上を図ることができた。

○平成30年3月に給食センター建設工事に着工するとともに、検討組織において給食実施に向けた教職員向けの指導の手引きやアレルギー対応マニュアル案等の策定を進めることができた。

【課題】

○握力及びシャトルランは、小学校で男女ともに全国平均を下回っていることが多く、引き続き小学校では、低学年からの鉄棒や遊具を使用した遊びを積極的に取り入れるなどの工夫を続け、中学校では、体育授業のはじめに基礎体力作りをするなど、体力向上に向けての取組を引き続き行う必要がある。

○夏季休業前に薬物乱用防止教室を実施し、薬物に対する正しい知識の習得と非行防止に向けた取組を実施する必要がある。

○給食センター建設にあわせて各中学校における配膳室の整備を進めるとともに、平成30年度中に給食が開始できるよう、アレルギー対応等の教職員研修や保護者説明会を実施していく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○体力テストにおいて、全国平均を下回っている原因等を追究し、課題の克服につなげてほしい。

○農作物栽培を行っていることは評価できる。地域の特徴を生かした体験は児童にとって重要であるため、継続してほしい。

○中学校給食の開始に向けて、食育は生徒の生活習慣の指導を行う一つの機会と捉え実施してほしい。アレルギー対応については、小学校のノウハウを生かして実施してほしい。

施策番号	4
施策名	家庭・地域社会との連携による特色ある学校づくり

<p>施策の目指す姿</p> <p>保護者や地域社会との連携を促進し、家庭・地域社会と一体となった教育活動の充実を図り、特色ある学校づくりを推進する。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 開かれた学校づくりの推進</p> <p>② 学校改善に生かす学校評価の充実</p>

事業名	ふるさと学習	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○小学校では、生活科や社会科とも関連させ、総合的な学習に取り入れた。</p> <p>1年生・2年生：「向日市にふれる」町探検（校区の公園や図書館等の見学）を通じた学習</p> <p>3年生・4年生：「向日市を知る」特産物（なす、たけのこ）や校区内の特色（お寺・踊り等）についての学習、簡単な歴史についての学習</p> <p>5年生・6年生：「向日市を学ぶ」インタビューやオリエンテーリング等の体験活動を通して、農作物や歴史・文化についての学習</p> <p>○中学校では、総合的な学習の時間の中で学習した。</p> <p>勝山中 1年生：「福祉、歴史、災害、公園、自然、安全」の中から選択して調査・研究した内容をまとめ、向日市の未来についての考えをまとめた。</p> <p>西ノ岡中 1年生：「向日市の特色」についての調査・研究や竹細工等向日市の特産品についての体験活動を通して、向日市の未来についての考えをまとめた。</p> <p>2年生：「向日市の特色」についての調査・研究を通して、「ふるさと新聞」を作成した。</p> <p>寺戸中 2年生：「向日市の歴史や現状」について調査・研究し、向日市活性化プロジェクト案を新聞に表現するなど、向日市の未来についての考えをまとめた。</p> <p>○ふるさと学習成果展</p> <p>日時 平成29年12月23日～平成30年1月14日</p> <p>場所 文化資料館 ラウンジ</p> <p>参加校 第5向陽小学校、西ノ岡中学校、寺戸中学校</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	学校評価	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○自己評価 各学校は、評価計画を作成し、改善した教育活動ができるように創意工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学年、学級、校内分掌担当での評価を実施（年2～3回） ・児童生徒、保護者、学校評議員からアンケート調査を実施（年1～3回） ・評価と調査を基に教育活動を捉え直し、改善策を明確化 <p>○自己評価の公表 各学校は、自己評価の結果と改善した教育内容の方向性を学校だよりで周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の方向性について ・授業づくりの視点について など 		
担当課	学校教育課		

施策の成果と課題

【成果】

○全小中学校で「ふるさと学習」が定着し、地域の特色に合わせてフィールドワークや体験活動を取り入れた学習を実施することにより、児童生徒は、ふるさと向日市について興味関心を高めることができた。また、ふるさと学習成果展の実施により、一般の方に対して日々の学習活動に対する理解を深めることができた。

【課題】

○新学習指導要領への移行期間に伴う総合的な学習の時間のカリキュラムの再編成や、新たにふるさとの魅力を発見するため、さらに地域との連携を図る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○ふるさと学習で学んだ内容を、校外に発信する機会を設けてほしい。また、成果展に、来場された方の意見や感想などを把握し、課題等の発見に努めてほしい。

○学校評価については、各学校定着しつつあるので、今後も工夫しながら継続して行ってほしい。

施策番号	5
施策名	教職員の資質能力の向上

<p>施策の目指す姿</p> <p>京都府教育委員会「教師力向上のための指針」を踏まえ、教職員一人一人が、研修等により自己の資質能力の向上を図るとともに、培った実践力を教育活動に積極的に生かし、組織としての学校の教育力を高め、計画的・継続的な教育実践に取り組む。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 教職員研修の充実</p> <p>② 教職員評価の実施</p>

事業名	子ども未来づくり支援事業（教職員研修）	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○教育委員会主催の教職員研修や各学校において、喫緊の教育課題や学校のニーズに沿った教職員研修及び先進校視察研修を実施した。</p> <p>①教職員研修</p> <p>年間3日間で7講座実施（延べ508人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年5月10日（水）午後3時～午後5時 「コミュニケーション能力」コミュニケーションスキルの向上（89人） 「外国語活動、外国語」授業改善の視点（70人） 「道德教育」道德性を育むための多様な指導方法（78人） ・平成29年8月21日（月）午後2時30分～午後4時30分 「特別支援教育」すべての児童生徒が分かる授業づくり（79人） 「人権教育」同和問題学習の授業づくり（59人） 「生徒指導」不登校児童生徒の背景を踏まえた効果的な支援（82人） ・平成29年10月25日（水）午後3時～午後5時 「授業力向上」主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業（51人） <p>②各学校の主な研修</p> <p>小学校26件、中学校13件（年間通じて複数回を含んだ延べ回数）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくり（国語科、算数科、図画工作科、外国語活動など） （授業改善、授業のユニバーサルデザイン、アクティブラーニング等） ・人権教育（同和教育）及び道德教育 ・児童生徒への支援（児童生徒理解・特別支援教育 等） <p>③若手教員研修（おおむね採用後2～5年目の教員）</p> <p>退職教員による、指導力向上のための支援（8校 21人 延べ65回）</p> <p>【主な支援内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、授業、学級経営についてのアドバイス ・教材づくり 		

	<p>④先進校視察研修</p> <p>各校のニーズに応じて実施（小学校17回31人、中学校4回5人）</p> <p>【主な研修校、視察テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑波大学附属小学校 研究発表、研究授業、ユニバーサルデザイン授業 ・岐阜県長良小学校 校内研究の進め方、授業研究 ・横浜国立大学附属横浜中学校 研究発表、授業研究
担当課	学校教育課

施策の成果と課題	
【成果】	<p>○市教委主催の全校教職員対象の研修を開催するとともに、各学校においても現代的教育課題や教員のニーズに沿った研修の場を設けることができた。</p> <p>○市教委から退職教員を派遣し、若手教員の知りたい内容に応じた研修を実施することで、指導力向上に取り組むことができた。</p> <p>○先進校視察を行った後、視察内容を学校の実践に生かせるよう校内で広めることで、指導方法を活用することができた。</p>
【課題】	<p>○若手教員の増加や教育に対する期待が多様化していく中で、人材育成は、非常に重要であり、引き続き、喫緊の課題である新学習指導要領への対応や人権学習などの研修を通じて、教員の資質向上に努める必要がある。</p> <p>○学校の実態や状況に応じた実践的な指導力を高めるとともに、校内での人材育成を目的に各学校での研修を今後も充実させる必要がある。</p>

外部評価委員評価及び意見等	
	<p>○複数名で先進校視察に行くことで、多様な視点から学校の研究を捉えることができ、効果的であるため継続してほしい。また、学校側が自校の研究等に合わせて視察地を選択できる仕組みは評価できる。</p> <p>○若手教員の研修について、市独自の研修等のシステムが構築できている点が評価できる。ただ、毎年方法等について見直し、形骸化しないようにしてほしい。</p>

施策番号	6
施策名	安心・安全な教育環境の充実

<p>施策の目指す姿</p> <p>児童生徒が安心して通え、楽しく過ごすことができる居場所としての学校づくりに取り組むとともに、あらゆる危機に対応する力をはぐくむ安全教育の充実を図る。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 学校における安心・安全の確保</p>

事業名	安心・安全教育	施策の方向性	①	
事業概要 実績	○いじめ調査の概要			
	いじめ調査の認知・解消件数（延べ件数）			
	年度	平成28年度		平成29年度
	項目	認知	解消	認知 解消
	小学校	1,434	1,414	1,578 1,354
	中学校	132	107	120 101
	合計	1,566	1,521	1,698 1,455
	○不登校数《年間30日以上欠席》（平成28年度）			
	・小学校 0.91%（0.84%）			
	・中学校 3.70%（4.14%）			
○交通安全教室の実施				
<p>小学校 「歩行練習」1年：3向小、4向小、5向小、6向小</p> <p>「自転車教室」2年：3向小、4向小、5向小、6向小</p> <p>「自転車運転免許教室」4年：向陽小、2向小、3向小、4向小、5向小</p> <p>5年：6向小</p> <p>中学校 「交通安全教室（自転車）」1年：勝山中、西ノ岡中</p> <p>全学年：寺戸中</p>				
担当課	学校教育課			

事業名	登下校時安全対策	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>①通学路安全推進会議の開催（年2回） 向日市通学路交通安全プログラムに基づき、通学の安全対策について協議を行った。 構成団体：京都府乙訓土木事務所・京都府向日町警察署 向日市（防災安全課・学校教育課・道路整備課）</p> <p>②交通指導員の配置 小学校の通学路における交差点や踏切等、登校時26箇所、下校時12箇所の危険箇所に交通指導員を配置し、通学路の安全確保を図った。 また、老朽化した交通安全啓発用反射電柱幕の交換や新たな設置を行い、通学路の交通安全について啓発を行った。</p> <p>③防犯ブザーの配布 小中学校の新1年生全員に防犯ブザーを配布した。 (小学生526個、中学生561個)</p>		
担当課	学校教育課		

事業名	学校施設の整備	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○児童生徒が快適な教育環境のもとで学校生活が送れるよう、校舎内のトイレ改修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 改修内容 床面乾式床、洋式大便器、自動洗浄機能付小便器、自動水洗式手洗い器、人感センサー式LED照明機器 平成29年度トイレ改修箇所 向陽小学校、第3向陽小学校、第4向陽小学校、第5向陽小学校、第6向陽小学校、勝山中学校、西ノ岡中学校、寺戸中学校（各1箇所） 		
担当課	教育総務課		

施策の成果と課題

【成果】

○いじめ調査では、児童生徒の状況をアンケートでつかむとともに、個別の聞き取りにより、相談や指導・支援につなげ、いじめ防止や予防につなげることができた。

○通学路安全推進会議において、学校から要望のあった通学路の危険箇所の情報を各機関と共有し、安全対策について検討を行った。

また、交通指導員を通行に際し注意が必要な箇所に配置し、児童が安心して通学できるよう対策を行った。「学童多し注意」「歩行者多し注意」の電柱幕を設置することにより児童生徒だけでなく、通行する車両に対しても交通安全に対する啓発を行った。

さらに、新1年生に防犯ブザーを配布し、不審者から身を守るための防犯・安全意識の啓発を行うとともに、いざという時に正しく使用できるよう、学校だよりを通じ、定期的な電池交換と外出時の常時携行について周知を行った。

○児童生徒が快適な教育環境のもとで学校生活を送れるよう、校舎内のトイレ改修を実施した。

【課題】

○いじめ防止等のために、専門的知識を有する者との連携を図り、学校がきめ細かく対応できるよう指導支援に努めるとともに、学校が、実情に応じて組織的な対応や一部の教職員が抱え込まず、速やかに対応できるよう常にいじめの早期発見早期対応を常に意識させる必要がある。

○不登校児童生徒は増加傾向にあり、一人一人の状況が複雑・多様化する中で、各児童生徒の理解に加え、保護者対応や医療的な支援など、専門機関との連携を一層進め、一人一人に応じた効果的な手立てを講じる必要がある。

○道路状況の変化等により通学路の危険箇所は常に変化するため、通学路安全推進会議や学校・地域と連携して、定期的に交通指導員の配置時間や配置場所について見直しを行う必要がある。

また、防犯ブザーを引き続き配布するとともに、引き続き様々な機会を通じて定期的な電池交換や常時携行について周知を図り、いざという時に使えるよう啓発を行う必要がある。

○向日市公共施設等総合管理計画に基づき、学校別に個別計画を定めていく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○いじめのアンケートについて、児童のケアが行えていることが評価できる。いじめの調査について記録を残し、情報共有を行い効果的な指導に役立て、早期発見、早期対応に努めてほしい。

○向日市の通学路について、今後も事故がないよう安全配慮の取り組みを継続してほしい。

施策番号	7
施策名	生涯学習環境の充実

<p>施策の目指す姿</p> <p>市民が生涯にわたり、多様な学習活動を行うことができるよう、自主的、自発的な学習活動を支援するとともに、学習機会の提供及び学習の成果を活かす場や機会の充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 生涯学習の振興</p> <p>② 社会教育施設における学習機会の充実</p>

事業名	生涯学習情報紙の発行	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>市などが開催する生涯学習関連事業の情報を市民に提供するため、生涯学習情報紙を発行した。</p> <p>生涯学習情報紙：年2回(前期・後期) 各450部発行(市内公共施設等に配布)</p> <p>子ども向け夏休み情報紙：年1回(夏休み前)、各小中学校に配布</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	生涯学習推進ボランティアサークル「まなぼうや」への支援	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>生涯学習の推進に取り組むボランティアサークル「まなぼうや」の活動に対して、講座の受付や広報等で支援を行った。</p> <p>開催講座数：6講座 参加者：53人</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	中央公民館生涯学習講座	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>全13講座、参加者321人</p> <p>①ふしぎ発見！理科教室 (5講座 参加者62人) 小学4～6年生を対象に、理科好きの子どもを育成するために毎回実験を行い、理科の不思議について学んだ。</p> <p>②夏休みこども体験講座 ・JR見学(参加者100人) 市内事業所であるJR西日本吹田総合車両所京都支所(旧向日町操車場)の見学。特急に乗車し操車場内や作業点検・洗浄などを見学し、安全・快適に運行されていることを学んだ。 踏切事故防止の啓発</p> <p>③子どもふれあい講座 ・ゲームで楽しく親子で学ぼう！おこづかいの使い方(参加者41人) おこづかいを通して、お金の大切さや役割を親子で学んだ。</p>		

	<p>④教養講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シニアのためのスマートフォン講座(参加者40人) 中高年を対象にスマートフォンの機能を学び、実際に使い生活に役立つことを知り、その便利さを体験した。 ・認知を支えるワーキングメモリ～認知機能について気を付けたいこと～(参加者28人) 認知機能と認知症、高齢者の認知の特徴や認知症のリスクを下げる生活習慣などを解説された。 <p>⑤健康講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今話題の感染症とその対策」(参加者14人) 感染症とはどのようなものがあるか?どのようにしてうつるのか?どうなるのか?かからないための予防などについて学んだ。 ・「食物アレルギー～何を食べたらいいの?～」(参加者8人) 食物アレルギーの正しい診断や治療、除去食など実生活において活かせることを学んだ。 <p>⑥国際理解講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中国文化を感じよう 二胡のミニコンサート&体験会」(参加者28人) 中国の文化や日本と中国での漢字の意味の違いを紹介。伝統楽器である二胡のミニコンサートと体験会を実施。 <p>⑦学習発表会(舞台発表) 発表者8団体</p> <p>⑧市民文化展 出展数78点</p>
担当課	中央公民館

事業名	地区公民館生涯学習講座	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>全9講座、参加者212人</p> <p>①寺戸公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・唱歌を楽しもう(参加者29人) 古き良き時代の思い出がよみがえる心に残る唱歌について学び、楽しく唄った。 ・寄せ植えを楽しもう(参加者20人) クリスマスから新春を飾る寄せ植えを作った。 ・楽しく学ぶ干支剪画教室(参加者30人) 剪画の技法を学び、来年の干支である「戌」の色紙を作成した。 <p>②物集女公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいいお正月飾り作り(参加者16人) ひと味違う、花をたくさん取り入れたお正月飾りを作成した。 <p>③森本公民館講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康は足元から!一生自分の足で歩こう!目からウロコの足育講座と健康体操(参加者36人) 理想の姿勢作りを目指し、足指の使い方や靴の選び方、歩き方などを学んだ。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・プリザーブドフラワーで作る Xmas リース (参加者 17名) リース作りを通してクリスマスの季節感を味わった。 ・アート書道で手作りカレンダー (参加者 27名) 年始の準備として、干支にちなんだイラストや文字でオリジナルカレンダーを作成した。 ④鶏冠井公民館講座 <ul style="list-style-type: none"> ・四季で移りゆく苔玉(参加者 19人) 山野草・花・観葉植物のいずれかを選び苔玉を作成した。 ⑤上植野公民館講座 <ul style="list-style-type: none"> ・金箔手工芸(参加者 18人) 新春に向けて干支の色紙を作成した。 ⑥学習発表会 (展示・掲示発表) 出展数 862点
担当課	中央公民館

事業名	図書館読書推進事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>①資料の収集と貸出 蔵書数 18万2千点 貸出 32万6千点、貸出者数 8万8千人</p> <p>②レファレンス・サービス 受付件数 74件</p> <p>③予約サービスによる資料提供、他館との相互貸借、障がい者サービス 予約処理件数 20,504件 相互協力 貸出685件、借用1,619件 障がい者サービス 自宅配本 43回 228点</p> <p>④読書の普及推進と読書環境の向上を図るための各種読書推進活動 おはなし会プラスコンサート (3回実施) 参加者 113人 おはなしひろば (8回実施) 参加者 229人 文学講座 (2回実施) 受講者 88人 小中学生読書感想文コンクール 応募者 178人 図書館リサイクル・デー 参加者 130人 (928冊を譲渡) 大人の朗読会 (4回実施) 参加者 97人 自習室の開設 利用者 38人</p> <p>⑤図書館ボランティアの育成及び支援 ボランティア講習会 受講者 11人 ボランティア養成講座 受講者 12人</p> <p>⑥ホームページの充実「読書手帖」の更新、「資料検索」機能の充実</p>		
担当課	図書館		

事業名	文化資料館運営事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>①古代の都“長岡京”をテーマとした常設展示の運営</p> <p>②特別展「乙訓郡誌の編纂とその時代」 期間中入館者 1, 303人</p> <p>③テーマ展示 ※（ ）内は期間中入館者数 「くらしのなかの戦争展」（3, 015人） 「夏休み子ども歴史教室作品展」（2, 432人） 「くらしの道具展」（2, 366人）</p> <p>④文化活動事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールデンウィーク特別企画「鉄道模型運転会」 来場者 1, 019人（定員なし） ・ 日曜談話会 <p>(1) 「“兵士”ができるまで—徴兵の歴史と人々—」 参加者 10人（定員なし）</p> <p>(2) 「未刊「乙訓郡誌」稿の編纂と構成について」 参加者 55人（定員なし）</p> <p>(3) 「史料紹介 元禄の寺社再興と向日神社との関わり」 参加者 76人（定員なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乙訓むこうまち歴史散歩 <p>(1) 「大枝・大原野を歩く」 参加者 17人（定員30人）</p> <p>(2) 「桂川沿いの乙訓を歩く」 参加者 15人（定員30人）</p> <p>(3) 「古代の街道と向日町界隈の遺跡・寺社を訪ねて」 参加者 37人（定員30人）</p> <p>(4) 「柳谷道・光明寺道を歩く」 参加者 27人（定員30人）</p> <p>(5) 「水陸交通の要衝、山崎を歩く」 参加者 35人（定員30人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乙訓むこうまち歴史講座 <p>(1) 「乙訓の地理」 参加者 59人（定員80人）</p> <p>(2) 「乙訓の歴史-古代-」 参加者 76人（定員80人）</p> <p>(3) 「乙訓の歴史-中世-」 参加者 83人（定員80人）</p> <p>(4) 「乙訓の歴史-近世・近代-」 ※台風接近のため第10回と合同開催</p> <p>(5) 「乙訓の文化-大原野-」 参加者 60人（定員80人）</p> <p>(6) 「乙訓の文化-久世・久我・羽束師・淀-」 参加者 50人（定員80人）</p> <p>(7) 「乙訓の文化-向日町-」 参加者 56人（定員80人）</p> <p>(8) 「乙訓の文化-新神足・海印寺・乙訓-」 参加者 61人（定員80人）</p> <p>(9) 「乙訓の文化-大山崎-」 参加者 59人（定員80人）</p> <p>(10) 「乙訓の文化-学校・記念碑-」 参加者 57人（定員80人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展記念講演会 <p>(1) 「自治体史編纂の歴史と西田直二郎について」 参加者 55人（定員80人）</p> <p>(2) 「桂昌院・徳川綱吉による元禄の寺社再興と金蔵寺・善峯寺」 参加者 76人（定員80人）</p> <p>⑤むこうし歴史行列絵巻事業</p> <p>(1) 夏休み子ども歴史教室「かぶとを作って西岡衆を学ぶ」</p>		

	参加者 19人 (定員25人) (2)連続ワークショップ「着る、読む、学ぶ 古代の都・長岡京」 参加者 ①11人②12人③13人 (3)ワークショップ成果発表会「長岡京遷都ものがたり」 参加者 14人 参観者 59人 従事ボランティア 13人 (4)大極殿衣裳行列 ※雨天のため行列は中止し、ステージ発表及び文化資料館内での写真撮影会のみ実施 参加者・関係者 55人 従事ボランティア 8人
担当課	文化資料館

事業名	天文館運営事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p><事業概要></p> <p>○プラネタリウム新番組の導入、講演会や講座の開催など、天文への興味・関心を高める事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日数 242日、投影日数201日、投影回数682回 ・プラネタリウム一般投影 観覧者数 5,745人 (特別投影を含む) ・プラネタリウム団体投影 観覧者数 3,311人 (81団体) ・観覧者の内訳 大人3,503人、小中学生2,141人、幼児3,412人 計9,056人 ・団体の内訳 市内14団体732人、市外67団体2,579人 幼稚園25団体1,400人、保育所32団体991人、こども園等4団体132人、小学校5団体453人、その他15団体335人 <p>○定例天体観望会 参加者数 364人 (12回開催)</p> <p>○特別天体観望会 参加者数 549人 (5回開催) スターウォッチング in 朝堂院 (6月) 昼の金星観望会 (5月)、昼の金星観望会 (7月) 夏休み親子観望会 (7月)、中秋の名月観望会 (10月)</p> <p>○天文教室・講座 参加者数 475人 (13回開催) 夏の天文教室 (7月4回、8月2回) 冬の天文教室 (1月1回、2月2回) 天文実験講座 (7月1回) 天文学講座 (9月、11月、12月 各1回)</p> <p>○特別企画事業 参加者数 291人 (5回開催) セタコンサート (8月)、星空☆落語 (10月) 秋の特別投影 (10月)、クリスマスコンサート (12月)</p>		

	JAXA 宇宙科学研究所特別天文講演会（2月） ○来館者総数12,706人（ロビーのみ入館者 2,082人）
担当課	天文館

施策の成果と課題

【成果】

- 生涯学習情報紙の発行や生涯学習推進ボランティアサークル「まなぼうや」への支援など、市民の自主的・自発的な学習活動を支援することができた。
- 中央公民館で各種講座を開催し、市民に学習の場を提供することができた。シニア対象のスマートフォン講座では、情報格差の解消を目的としたところ、申込が多数あり新しいことに興味を持ち、取り組もうとするシニア世代の市民に学習機会の提供ができた。
- 市民文化展、公民館サークルの学習発表会では市民の創作による作品や学習内容などを発表する機会を提供することができた。
- 地区公民館で様々な講座を開催することにより、市民の自主的な学習支援や生涯学習の環境づくりに努めることができた。
- 図書館のボランティア活動支援の結果、図書修理が1,924冊に及び、ボランティアとして新しく6人が登録した。
- 図書館で学校支援に努めた結果、利用が1,823冊あり、サービスとして定着してきた。
- 図書館・文化資料館では、祝日・休日の振替休館日をなくし、開館日を増加して利用しやすくした。
- 文化資料館展示事業について、恒例の「くらしの道具展」では、市内外から小学校団体見学を多数受け入れ、農具の使い方の実演も交えて、昔の生活について学習してもらう機会を提供することができた。特別展では、旧乙訓郡内の寺社等から借用した貴重な文化財を多数展示し、これまであまり知られていなかった乙訓郡誌の編纂過程とその時代背景を関係資料とともに紹介することができた。
- 文化活動事業について、鉄道模型愛好グループの協力を得て開催した「鉄道模型運転会」では、親子連れを中心に、3日間で1,019人と多くの来場者があった。特別展関連事業として開催した全5回の「乙訓むこうまち歴史散歩」、全10回の「乙訓むこうまち歴史講座」はいずれも好評で、市外からの参加も多くみられた。特別展期間中に2回開催した記念講演会では、展示事業と関連した内容で多くの方に学習機会を提供することができた。次世代向けの事業として企画した連続ワークショップは、復元古代衣裳を活用した新たな取り組

みであり、実体験も交えて、様々な角度から古代の都・長岡京について学習してもらうことができた。また、その集大成として、子どもたちが古代衣裳を着用して長岡京遷都について群読を披露する学習成果発表会も好評であった。

○天文館では、講座や教室等の開催を拡充し、子どもから大人まで楽しめる生涯学習の場として充実できた。

また、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の講師を招致するなど、多様な事業を通して多くの方に天文への興味と関心を深めてもらうことができた。

【課題】

○生涯学習について、引き続き市民が自主的・自発的に学習活動に取り組めるよう、各課・関係機関が行っている講座の情報について、より見やすい誌面となるよう効果的にとりまとめる工夫が必要である。

○各講座については、開催時期や周知の方法などを工夫し、多様な市民ニーズに対応できるよう保育ルームや手話通訳等を設置するなど、誰もが参加することができる講座・学習活動のきっかけとなる講座の開催に努める。

○新たな利用者呼び込むために広報や事業にさらなる工夫が必要である。

また、年々増加する多種多様なニーズに応えるため、資料の充実と情報の収集、職員の技能向上が必要である。

○展示事業について、今後も展示内容の充実と積極的な広報に努め、入館者数の一層の増加につなげる必要がある。

○文化活動事業について、展示事業と関連して開催する歴史講座や講演会などについては、多くの方の参加があり、展示内容への理解と関心をより深める機会の提供として、今後も魅力的なテーマ設定に努める必要がある。

夏休み子ども歴史教室など次世代向けの事業については、実績を重ねてきた一方、目新しさが求められている面もあり、これまでの経験を継承・活用しつつも、全体的に内容を再検討していく必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○中央公民館のシニアのためのスマートフォン講座について、アプリケーションの普及等、スマートフォンの使用が不可欠な社会状況の中、シニア世代の学習機会の提供は、社会への参加を促すことにもつながるため大変重要である。講座の対象とする方と受講を希望する方との受講内容に齟齬がないように広報に努め、継続してほしい。

○健康講座の一環で、熱中症対策講座を開催する等、情勢に応じた学習の場を提供してほしい。

○図書館の自習室について、市民の要望に応え開設された点が評価できる。

○文化資料館の文化活動事業について、シリーズにすることで足を運ぶ機会が増える取り組みが評価できる。

 広報について、実施日等の記載といった単調なものではなく、参加を促す内容を記載するなど、目に留まる工夫が必要である。

○天文館について、プラネタリウム新番組の導入や講座の開催など、年々充実されている点が評価できる。新たな事業を取り入れ創意工夫を重ねるとともに、検証、改善を行いより良い環境づくりに努めてほしい。

施策番号	8
施策名	家庭・地域社会の教育力の向上

<p>施策の目指す姿</p> <p>家庭教育はすべての教育の出発点であり、その担い手である保護者自身が学ぶための学習機会の充実に努めるとともに、学校・家庭・地域社会が連携して、様々な活動を通して地域の絆を強め、地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進する。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 家庭の教育力の向上</p> <p>② 地域社会の教育力の向上</p>

事業名	家庭教育講座	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○家庭および地域の教育力の向上（基本的な生活習慣の重要性）について、市民への理解を呼びかけ、地域での取組みの促進を図ることを目的に開催した。</p> <p>「ほめ上手はしつけ上手 ～ほめ上手になる秘訣を一緒に学びましょう～」 参加者：28人</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	PTA との連携・支援	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○向日市 PTA 連絡協議会の活動に対する支援・助言</p> <p>○社会教育関係団体への補助金交付 交付団体：市立小中学校 PTA</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	地域で支える学校教育推進事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○学校を核とした地域づくりを目的に、地域住民が自らの経験や知識を生かして学校の教育活動を支援する体制づくりを推進した。</p> <p>実施校：向陽小（H26～）、2向小（H24～）、3向小（H21～） 4向小（H29～）【拡充】、5向小（H27～）、 6向小（H28～）、勝山中（H27～）、西ノ岡中（H25～）</p> <p>実行委員：43人</p> <p>内 容：学習支援、環境整備、読書活動支援、部活動支援など</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	放課後児童サポート事業	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○子どもの安心・安全な居場所づくりを目的に、5時間目終了後から高学年の授業終了までの間、低学年を対象に自由遊び等を行った他、2向小では全学年を対象に放課後学習を実施した。</p> <p>実施場所：市内全小学校 実施回数：134回（年間延べ17,138人） 内 容：グラウンド・体育館での自由遊び、教室での自主学習など</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	ジュニア・リーダー養成講座	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○次世代のリーダーとして必要な知識、技術、コミュニケーション能力の習得を目的に、野外活動・講話・実習などの体験学習や集団学習を行った。</p> <p>参加者：14人（小学校5、6年生：12人 中学生：2人） 開講数：7回</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	青少年健全育成団体との連携・支援	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○青少年健全育成団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全見守りパトロール、あいさつ運動の実施 ・市民ふれあいコンサートの実施 ・環境浄化活動の実施（携帯電話取扱店舗の立入調査） <p>○青少年健全育成団体への補助金交付 交付団体数：4団体</p>		
担当課	生涯学習課		

施策の成果と課題	
<p>【成果】</p> <p>○就学前からの家庭での子育てに関する講座を開催することで、家庭教育の担い手である保護者に対して学習機会を提供することができた。特に、今回は土曜日に開催したことにより、働いている保護者や男性の参加者が増えた。</p> <p>○新たに第4向陽小学校で「地域で支える学校教育推進事業」（学校支援地域本部事業）に取り組むことにより、学校を核とした地域づくりを推進することができた。</p> <p>○PTA・青少年健全育成関係団体によるさまざまな活動を通して、地域の教育力の向上を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○家庭の教育力の向上を図るため、就学前からの子どもの家庭教育に関する学習機会の提供や、基本的な生活習慣の重要性や現代的課題などの理解促進に向けた取り組みを推進することが重要である。</p>	

○地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりを推進するため、地域で支える学校教育推進事業における人材確保に努めるとともに、PTA や青少年健全育成関係団体の活動を支援することが必要である。

外部評価委員評価及び意見等

○家庭教育講座について、働いている保護者や男性の参加者が増えたことは評価できる。

「家庭教育」の概念は広いため、講座のテーマや講師は、市民の要望等をくみ取りながら決めてほしい。また、働きながら子育てをする世帯が増えているため、その世帯を対象にした講座も開催してほしい。

○地域で支える学校教育推進事業や放課後児童サポート事業について、学校を核とした地域づくりを推進できていることは評価できる。イベントとは違い、日々の積み重ねが重要であるため、今後も連携を密に行い、地域や学校の要望を尊重しながら事業の充実を図ってほしい。

施策番号	9
施策名	子育てを支援する保育環境づくり

<p>施策の目指す姿</p> <p>子育て支援のための施設の計画的な整備を図るとともに、時間延長等多様な保育サービスの充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 放課後児童健全育成事業（留守家庭児童会運営事業）</p> <p>② 幼児教育の振興</p>

事業名	放課後児童健全育成事業（留守家庭児童会運営事業）	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○放課後などに保護者等が仕事などで不在の小学生に、遊びや生活の場を提供し、その健全な育成を図る。</p> <p>①各留守家庭児童会入会児童数 612人(5月1日現在)</p> <p>第1留守家庭児童会 109人(3クラブ)</p> <p>第2留守家庭児童会 123人(3クラブ)</p> <p>第3留守家庭児童会 80人(2クラブ)</p> <p>第4留守家庭児童会 126人(3クラブ)</p> <p>第5留守家庭児童会 105人(3クラブ)</p> <p>第6留守家庭児童会 69人(2クラブ)</p> <p>②指導員研修会の実施 計7回(参加者延べ153人)</p> <p>「『緊急対応』について」</p> <p>「『けが等の対応』について」</p> <p>「人権研修会『わたしからはじまる部落問題』」</p> <p>「消防訓練(指導員対象及び児童・指導員対象の計2回)」</p> <p>「救命講習」</p> <p>「人権研修会『対話を通してつくる共生社会 ～障がい(バリア)のない社会を目指して～』」</p> <p>③施設環境整備</p> <p>必要に応じて各児童会の施設修繕に努めた。</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	幼児教育の振興	施策の方向性	②
事業概要 実績	<p>○向日市私立幼稚園就園奨励費補助金・向日市私立幼稚園児教材費補助金</p> <p>子どもの心身の健やかな成長を促す上で、極めて重要である幼児教育を行う幼稚園への就園を奨励し、園児の保護者の経済的負担の軽減を図るため、補助金を交付</p> <p>就園奨励費：所得制限あり</p> <p>交付：園児665人 総額91,267,300円</p> <p>教材費補助金：園児1人当たり42,000円</p> <p>交付：園児809人 総額33,978,000円</p>		

	<p>○向日市私立幼稚園設備費補助金 市内私立幼稚園の教育環境の整備に対する補助金交付 交付：市内3園 1園当たり210,000円</p> <p>○乙訓私立幼稚園協会教育研究補助金 乙訓私立幼稚園協会が実施した職員研修等に対して補助金を交付 交付：195,000円</p> <p>○向日市私立幼稚園特別支援教育振興補助金 市内3私立幼稚園特別支援教育に係る人件費に対し補助金を交付 交付：市内3園 総額 1,862,000円</p>
担当課	教育総務課

施策の成果と課題	
【成果】	<p>○入会要件を満たす児童を全て受け入れたことで、保護者のニーズに応えることができた。</p> <p>○私立幼稚園に在園する園児の保護者のうち、多子世帯及びひとり親世帯等の保護者負担軽減を拡充することにより、更に保護者の経済的負担を軽減することができた。</p> <p>私立幼稚園の設備、備品の整備を促進するとともに教職員の研修会等を支援することにより、幼児教育の振興を図ることができた。</p> <p>障がいのある幼児を受け入れる私立幼稚園を支援することにより、障がいのある幼児の就園促進及び教育振興を図ることができた。</p>
【課題】	<p>○北部開発に伴う人口の増加や共働き世帯の増加により入会児童数が年々増えていることから、今後も保護者のニーズに応じていくため、老朽化している施設の整備や指導員の確保に努める必要がある。</p> <p>○国の幼児教育無償化の動向を見据え、市民に対して分かりやすい制度の説明が必要である。また、入園を検討している方に対し、広く周知を図る必要がある。</p>

外部評価委員評価及び意見等	
	<p>○留守家庭児童会の長期休業期間の一時入会を含め、入会希望者が全て受け入れできていることは評価できる。子育てを支援する保育環境づくりは、教育委員会のみならず市全体の課題である。今後も施設の整備や指導員の確保に努めてほしい。</p> <p>また、指導員について研修会の実施を継続し、育成に努めてほしい。</p>

施策番号	10
施策名	スポーツの振興

<p>施策の目指す姿</p> <p>市民が健康で心豊かに暮らせるよう、市民一人一人のライフステージに応じたスポーツ活動の推進とスポーツに親しめる環境の充実に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① スポーツ活動の推進</p>

事業名	各種スポーツイベントの開催	施策の方向性	①
事業概要 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市民総合体育大会 参加者：708人 ・スポーツ交流フェア 参加者：498人 ・スポーツランド <雨天中止> 		
担当課	生涯学習課		

事業名	市民体育館の管理運営	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成28年度から5年間の指定管理者に（公財）向日市スポーツ文化協会を指定している。</p> <p>体育室稼働率：89.0%</p> <p>トレーニング室利用者：23,462人</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	スポーツ指導者育成	施策の方向性	①
事業概要 実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員の育成 研修会の開催（毎月1回）、スポーツイベントへの派遣など ・スポーツ指導者研修会の開催 「スポーツを楽しもう」 参加者：98人 		
担当課	生涯学習課		

事業名	学校等体育施設開放事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>社会体育の振興を図るため、学校等体育施設の開放を行った。</p> <p>使用回数 ○小学校 体育館：2,129回 グラウンド：1,753回</p> <p>○中学校 体育館：903回</p> <p>○向日町競輪場スポーツ施設：950回</p>		
担当課	生涯学習課		

事業名	フレンドシップ協定に基づく事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	京都サンガF.C.、京都ハンナリーズ、京都フローラとフレンドシップ協定を結び、市民の体力向上に向けた取組を推進した。 ・健康アカデミー、バスケットボールクリニックの開催 ・向日市民デーの実施		
担当課	生涯学習課		

施策の成果と課題

【成果】

○学校等体育施設の有効活用やスポーツイベントを開催することにより、スポーツを行う機会を提供することができた。

【課題】

○自らの意欲や健康状態に応じて、誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、引き続き（公財）向日市スポーツ文化協会や関係機関・団体と連携して事業に取り組む必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○スポーツイベントや、市民体育館の利用など参加者が前年度より増加している点が評価できる。市域が狭いため施設等が限られているが、振興に努めてほしい。

○スポーツの未経験者や中高年層など、誰もが気軽に参加できる生涯スポーツを推進することは大切である。今後もスポーツの実施割合を調査し、普及を図るとともに、スポーツ推進委員の育成に努めてほしい。

施策番号	11
施策名	多様性を認め合う社会の実現

<p>施策の目指す姿</p> <p>市民が生涯のあらゆる場や機会を通じて、人権尊重の理念や、同和問題など様々な人権問題についての正しい理解と認識を深めるとともに、実践につながる自発的な学習活動の促進と、その啓発に努める。</p>
<p>施策の方向性</p> <p>① 人権教育の推進</p>

事業名	人権研修会	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>市民がそれぞれの状況に応じて、人権尊重の理念に対する理解を深め、これを体得することができるよう、人権について学ぶ機会として開催する。</p> <p>第1回「わたしからはじまる部落問題」 参加者：34人</p> <p>第2回「対話を通してつくる共生社会 ～障がい（バリア）のない社会を目指して～」 参加者：31人</p>		
担当課	生涯学習課		

施策の成果と課題	
【成果】	<p>○異なる2つのテーマを取り上げたことにより、さまざまな人権問題について正しい理解と認識を深めることができた。特に、第1回目は講演だけでなく、クイズや参加者同士の意見交流を取り入れたものであり、テーマについて参加者自らが考える機会を提供することができた。</p>
【課題】	<p>○より多くの市民に参加してもらえるよう、市民に身近なテーマの選択や周知方法等を工夫する必要がある。</p>

外部評価委員評価及び意見等	
○保育ルームの開設や手話通訳等、研修会に参加しやすい環境を提供できている点は評価できる。	
○目標としていた参加人数に達しなかった要因について、日時、場所、内容等の検証を行う必要がある。毎年、開催の時期や場所を同様にすることで、「人権研修会」の定着につながることもある。人権について学ぶ場の提供に努め、広く発信してほしい。	

施策番号	12
施策名	歴史・文化資源の整備と活用

施策の目指す姿 文化財の保護及び積極的な整備や活用に努め、歴史・文化資源を未来に継承する。
施策の方向性 ① 文化財の保護と活用

事業名	文化財の指定等	施策の方向性	①
事業概要実績	○京都府指定文化財 物集女車塚古墳出土遺物 一括 平成30年3月23日指定 ○京都府暫定登録文化財（平成29年度新設、年度中登録） 古文書（7）、歴史資料（6）、考古資料（16）、民俗文化財（2）、史跡（1）の計32件 平成29年度末の市内の国・府・市の指定文化財等は90件となった。		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	有形文化財の保護と活用事業	施策の方向性	①
事業概要実績	○建造物の保護と活用 ・旧上田家住宅活用 平成28年度に史跡長岡宮跡買上事業に係り寄附を受けた農家住宅の活用について検討を行った。 庁内活用プロジェクト会議 3回（うち、1回は先進地視察） 活用基本設計書の作成 国登録有形文化財への検討 ・防火・防犯 文化財火災予防運動の期間、広報活動、消防訓練、消防設備の点検立入検査 ・維持管理 国及び京都府指定文化財（建造物）修理・防災設備維持管理に補助 3件 265,000円 ・文化活動補助 国登録有形文化財を活用した文化活動に補助 1件 40,000円		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	無形文化財の保護と後継者育成事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	○無形民俗文化財の保護と活用 保存団体の文化活動と後継者育成に補助 2件 70,000円		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	史跡の保護と活用事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○史跡公園整備事業</p> <p>史跡長岡宮跡大極殿西・北面回廊地区の保全整備し、隣接する史跡指定地等との一体化を行い活用の促進を図るため、遺構表示や回廊の建物復元などの史跡整備工事（2か年事業の1年目）を行った。</p> <p>整備工事面積 1,712.88㎡ 整備完了後活用面積 5,612.88㎡</p> <p>○史跡乙訓古墳群地籍整備事業</p> <p>史跡乙訓古墳群の適正な保護と活用の促進を検討するため、国土調査法に基づき、史跡乙訓古墳群の境界確定測量を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五塚原古墳 38,155㎡ ・寺戸大塚古墳 5,647㎡ <p>○保存団体への補助</p> <p>市内に所在する史跡等の保存団体に対し文化活動補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3団体 78,000円 <p>○維持管理</p> <p>史跡指定地等の文化財用地の清掃、除草、樹木の剪定を実施し、史跡環境の保全に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8か所、延51回 		
担当課	文化財調査事務所		

事業名	埋蔵文化財の保護と活用事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○開発等に係る埋蔵文化財の審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発、まちづくり条例に係る文化財審査 48件 ・建築確認申請に係る文化財審査 283件 ・埋蔵文化財発掘届出書受理 246件 ・埋蔵文化財発掘通知書受理 32件 <p>○埋蔵文化財発掘調査等事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財発掘調査 18件 1,338.65㎡ ・埋蔵文化財詳細分布調査 223件（工事立会） ・各種埋蔵文化財調査に伴う出土遺物 80箱 		

	<p>○埋蔵文化財出土遺物保存処理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長岡京跡ほか出土銭貨 50点 <p>○埋蔵文化財出土遺物整理分類事業</p> <p>埋蔵文化財発掘調査等の出土遺物を活用度に応じA～Dの四種類に分類し、そのデータベース作成を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 コンテナ60箱631点（点数は活用できるA、B分類のみ） ・累計コンテナ11,831箱71,721点（点数は活用できるA、B分類のみ）
担当課	文化財調査事務所

事業名	文化財の広報普及事業	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○史跡長岡宮跡朝堂院公園公開・説明（平成22年6月22日 開所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開園日数 350日 来訪者数 9,195人（1日平均26.27人） ・累計来訪者数 56,879人 ・平成29年6月29日 来訪者5万人認定式（向陽小学校6年生） ・その他、市内小学校の学年、クラス単位の地域学習や教職員検収の場として朝堂院公園を活用した。 <p>○復元体感アプリ「AR長岡宮」の活用（平成26年3月末配信）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 4,680人 （ダウンロード 3,978人、貸出タブレット702人） ・累計利用者 14,384人 （ダウンロード10,354人、貸出タブレット4,030人） ・平成29年度 機能拡張（ゲーム機能追加）とVRゴーグル作成し、長岡京遷都の日である11月11日から配布・配信を開始 <p>○復元体感アプリ「墳タビ！物集女車塚古墳」の活用（平成29年3月末配信）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者（ダウンロード）数 3,781人 <p>○模型の展示</p> <p>平成28年度に実施した「長岡宮大極殿等一部復元プラン策定事業」で作成した史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂復元模型を、広報普及を目的として市役所本館エントランスに展示した。</p> <p>○古代衣装の貸出（長岡京期の衣装 男女各4着）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸出数 75人 		

○史跡乙訓古墳群物集女車塚古墳石室一般公開

・一般公開 期 間 平成29年5月23日～平成29年5月31日
見学者 566人

・臨時公開 期 間 申込日(随時)
見学者 282人(市内小学校及び大学等)

・その他、公益財団法人向日市埋蔵文化財センターにおいて、石室公開に併せ、ふるさと学習を実施。

○市民考古学講座開催事業

「考古学の通説を見直す～向日市発、重大発見の成果から～」を主題とし、講座6回と講演会1回を実施した。

・参加者 計513人

○埋蔵文化財調査成果展の開催

・展示会名 「先祖の記憶～古墳時代の祖霊観～」

期 間 平成29年9月2日～平成29年10月9日

来館者 2,047人

・講演会 開催日 平成29年10月7日(土)

演 題 古墳時代の埋葬と系譜意識

参加者 103人

○スタンプラリー開催

・名 称 史跡めぐり 大発見向日市～隠れた名称を探してPart2～

・内 容 市内4か所の史跡等をめぐる自由参加型のウォーキングイベント

・開催日 平成30年2月11日(日・祝)

・参加者 200人

○埋蔵文化財発掘調査現地説明会

埋蔵文化財発掘調査の成果を広報するため、市民等を対象に2回(長岡宮内裏、五塚原古墳)の現地説明会を開催した。

・参加者 260人

○スライドでみるおとくへの発掘

平成29年度に乙訓地域で実施した主な埋蔵文化財発掘調査成果をスライドなどで広く市民に報告した。

・主 催 乙訓文化財事務連絡協議会

(2市1町教育委員会、向日市・長岡京市埋蔵文化財センター)

・開催日 平成30年3月4日(日)

・場 所 長岡京市立図書館 3階 大会議室

・参加者 90人

	<p>○埋蔵文化財等保管資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出土遺物等 5機関に119点の資料を貸出 ・写真資料提供、掲載等承諾 11機関に69点を提供 ・保管資料の調査・見学対応 3機関に19点の資料を提供 <p>○長岡宮絵灯路と向日町のまち場の再現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 平成29年11月11日(土) ・場所 史跡長岡宮跡 朝堂院公園 ・内容 朝堂院の絵灯路・・・復元した柱跡の上に絵灯籠を設置 向日町のまち場の風景・・・江戸時代の大道芸を披露 復元体感アプリ「AR長岡宮」のVRゴーグルの配布 ヘッドマウントディスプレイによる「AR長岡宮」のデモンストレーション ・参加者 458人
担当課	文化財調査事務所

事業名	歴史・文化拠点の整備	施策の方向性	①
事業概要 実績	<p>○調査活動及びソフト面の整備</p> <p>調査活動では、向日神社文書北真経寺檀林関係文書調査を行った。ソフト面の整備としては、平成28年度に長岡宮跡牛車わだち跡模型を3D計測した成果を活用し、映像番組を制作した。また、長岡京期の貴族の衣裳を復元製作して展示し、土器の実物に触れることができる体験コーナーも整備した。</p> <p>○市民活動の推進</p> <p>(1) 文化資料館ボランティアの会の育成 常設展示案内を中心に来館者に対応するガイド班と、収蔵資料の整理、民具の展示などに取り組む資料整理・展示班に分かれて活動するボランティアの会の育成・支援を行った。(登録者 18人)</p> <p>(2) むこうまち歴史サークルの育成 文化資料館を拠点とする自主学習サークルとして、テーマごとに計4班を編成し、各班毎月2回の学習活動を支援した。また、サークル全体での合同研修会を実施し、他団体と講演会を共催した。(登録者 49人)</p>		
担当課	文化資料館		

施策の成果と課題

【成果】

○「歴史的風致維持向上計画」に基づく他部課の事業と連携し、文化財を適切に保護するとともに、復元・体感アプリケーション「AR長岡宮」や「墳タビ！物集女車塚古墳」などの配信、展示会や講座、講演会、史跡めぐりの開催など、地域の特色ある歴史・文化資源の魅力を引き出し高めるため、多彩な文化財の保護と活用を推進することができた。

その結果、市民の文化財保護への理解を深め、史跡への来訪者や講演会等の参加者増などの成果を上げることができ、文化財を核とした地域振興、観光振興などのまちづくりにも寄与することができた。

○向日神社文書及び北真経寺檀林関係文書調査では、未整備であった古文書の目録を作成し、今後の活用に備えることができた。

長岡宮跡牛車わだち跡模型に関する映像番組の制作では、最新のデジタル技術による3D計測の成果を活用するとともに、想像アニメーションも取り入れ、わだち跡の発掘とその意義、模型制作の経過などを分かりやすくまとめた映像番組を制作することができた。

○市民活動の推進について、文化資料館ボランティアの会は、常設展示の個別案内、団体見学対応、夏休み子ども歴史教室及び連続ワークショップの補助、収蔵資料の整理・清掃、民具の展示など幅広い活動で資料館運営の支援を行った。

また、古代衣裳製作及び乙訓地域地形模型制作のボランティア活動では、市民有志が自主的な運営により、年間を通じて活発に活動を行った。

むこうまち歴史サークルの活動拠点として資料館研修室を提供し、活発な活動を支援することができた。

【課題】

○「史跡乙訓古墳群」や「史跡長岡宮跡」、「向日神社」など本市の特色ある歴史・文化資源は、市内外への認知度が必ずしも十分ではない。このため、歴史・文化資源を地域の歩みを物語る「宝」として、「後世に残したい」という思いを市民の間で共有されるよう、広くその価値を高めるため、多彩できめ細やかな保護と活用、情報の発信を継続して実施していく必要がある。

○調査活動については、古文書調査の成果を活かし、より詳細に調査・研究を進めるとともに、引き続き市内の潜在的歴史資源の発見・保存・活用を図っていく必要がある。ソフト面の整備においては、本市の歴史・文化資源について分かりやすく発信するメディアとして映像番組が有効な手段の一つと考えられることから、投映方法を工夫したり、新たな映像番組を制作したりするなど、今後も改良を重ねていく必要がある。また、古代衣裳をボランティアにより製作する取組は、文化資料館の特徴的な活動の一つであり、製作した古代衣裳の着用体験のイベントや向日市まつりの大極殿衣裳行列などに活用しているが、今後も活動を継続していくには、材料費などの予算の確保が課題である。

○市民活動の推進について、近年、ボランティアの会の新規入会は少なく、高齢化も進んでいる。様々な機会を通じて加入を呼びかけ、会員数の増加に努める必要がある。

また、歴史サークル会員も高齢化が進んでおり、会員数も少しずつ減少してきている。自主的な運営が基本であるが、今後も活動場所の提供のほか、学習の参考となるような資料の貸出し、情報提供など、資料館としてできる範囲の支援を行い、市民活動の充実を図る必要がある。

外部評価委員評価及び意見等

○実際に文化財に触れることは良い機会であり、参加者や見学者が多い点は評価できる。

○小学生が見学会に参加し、興味を抱く内容で体験し、学ぶ機会を設けている点は評価できる。家庭に持ち帰り保護者にも普及する等、広い世代で興味を持つ取組を実施するべきである。

○新たな層を取り入れるためには、多様なメディアを活用し周知を図る必要がある。特にSNSの利用が多い若年層の意見を聴取する等を行い、情報の発信に努めてほしい。

○パンフレット等は、朝堂院公園等だけではなく、市民が手に取りやすい場所に配架することで興味、関心を持つ機会が増えるため、設置場所の見直しが必要である。